



# Become A Social Innovator

2021年度第2四半期決算説明会  
参天製薬株式会社

説明会：2021年11月9日

# 本日の出席者

## 発表・Q&A対応



代表取締役社長  
兼CEO  
**谷内 樹生**



常務執行役員  
経営管理担当兼  
CFO兼 財務・管理本部長  
**越路 和朗**

## Q&A対応

常務執行役員  
企画本部長  
**鈴木 聡**



執行役員 製品開発本部  
中国製品開発統括部長  
**森島 健司**



# 重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

# 基本理念とWORLD VISION

## 基本理念

# 天機に参与する

自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するという  
ことを意味しています。\*

## WORLD VISION

# Happiness with Vision

世界中の一人ひとりが、Best Vision Experience を通じて  
それぞれの最も幸福な人生を実現する世界を創り出したい。

\* 中国の古典「中庸」の一節をSantenが独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。

# Santen 2030 – 2030年、そしてその先へ –

## Santen's VISION

# Become A Social Innovator

Santenは、世界中の技術や組織・人材をつなぎ、「見る」を通じて人々の幸せを実現するSocial Innovatorへ。

## GOAL

眼の疾患や不具合に起因する世界中の人々の社会的・経済的な機会損失を削減することを目指す。

## STRATEGY

- A Ophthalmology**  
眼科医療のイノベーションと眼科医療エコシステムの発展加速
- B Wellness**  
より良い眼の状態に向けた重要性認識向上とアイケアの推進
- C Inclusion**  
視覚障がいの有無に関わらず交じり合い・いきいきと共生する社会の実現

# Vision 2020からSanten 2030に向けた戦略展開

Vision 2020 (2011-2020)  
グローバル市場での  
プレゼンス拡大

MTP2025 (2021-2025)  
真のグローバル  
眼科Rx企業への変革

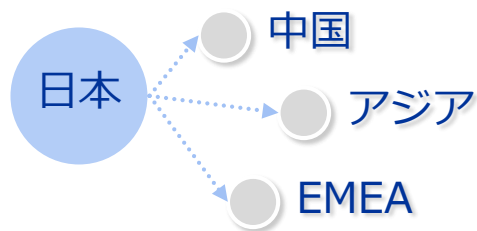
Santen 2030 (2021-2030)  
Social Innovatorへ

Step1  
日本の強みをテコに海外展開

Step2  
グローバル化深化・新規領域参入

Step3  
眼科分野のリーダー

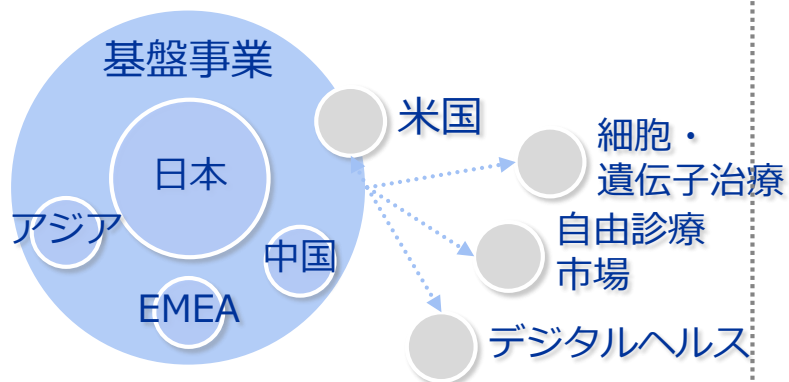
2011年時点のSanten



眼科医薬品のトッププレイヤーとして  
日本で構築した強みをテコに複数地域に事業を拡大し急成長、グローバル(米国除く)でプレゼンスを確立

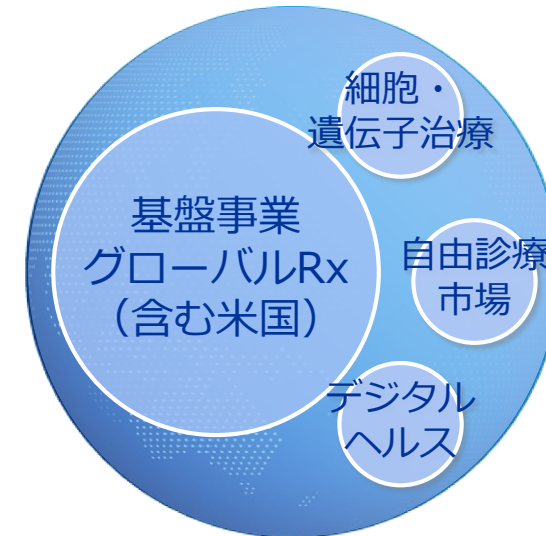
- 2014年メルク製品獲得後、アジア・EMEAでのプレゼンスを拡大

2021年時点のSanten



基盤事業の価値最大化とそれをテコにした  
新規事業・新規領域への参入

- 基盤事業のプラットフォームとEyevanceの基盤を活用して米国眼科薬市場に参入
- 将来の成長分野である細胞・遺伝子治療技術、自由診療市場向け製品ならびにデジタルヘルス領域への投資も着手



眼科医薬品では米国を含めて盤石化  
更に、従来の医薬品以外の新規技術や自由診療に拡大しつつ、事業モデルを進化  
眼を通じて社会貢献するSocial Innovatorへ

# Agenda

## ① MTP2025実現に向けた戦略展開

- (1) 基盤事業での利益率向上
- (2) 新規領域の拡大
- (3) グローバル企業としての土台の強化

## ② R&D Update

## ③ 業績概要

## Appendix

# MTP2025最初の半期は想定通りに進捗。 中長期成長投資と収益性のバランスを取り通期予想の達成を目指す

- **2021年度第2四半期業績：**

- 売上収益：1,288億円（+8.3%）
- 営業利益：188億円（+0.6%） ・ コア営業利益：243億円（-5.4%）

- **2021年度通期見通し：変更なし**

- 売上収益：2,600億円（+4.2%）
- 営業利益：415億円（+240.5%） ・ コア営業利益：520億円（+3.8%）

- **通期配当予想：対前年4円増配で変更なし**

- 年間配当予想32円（中間配当16円）



# 基盤事業は成長基調を維持。中長期成長施策も順調に展開。 持続的な成長を実現するための取り組みを着実に実行



基盤事業での  
利益率向上

## 日本などを中心に市場を上回る成長基調を継続

(日本+6%・中国+10%・アジア-2%\*・EMEA+15%)

- 製品開発やエコシステム発展などの中長期施策を展開



新規領域の  
拡大

## 新規事業の着実な進展

- 米州：STN1011700やSTN1010900などのイベントを見据えた事業戦略精緻化
- R&D：中長期成長を実現するパイプラインの進捗  
STN2000100がシンガポールで承認取得。欧州でも近視薬導入。



グローバル  
企業としての  
土台の強化

## 製品創製を実現するグローバル体制への転換

- 米国や中国を中心に、グローバルでR&D部門組織力強化
- 中長期的需要に対応できる生産体制の構築（滋賀・蘇州）

**ESGの取り組み**（ガバナンス開示・DE&I・職場環境・環境取り組みなど）

\*アジアは前年の一括出荷影響を除いてプラス成長

(1) 基盤事業での利益率向上：日本事業

# 患者さんのニーズに基づいた製品・ソリューションの展開による 盤石な基盤

患者さん視点の  
新製品開発



製品  
ライフサイクル  
マネジメント



高い  
顧客対応力



(1) 基盤事業での利益率向上：日本事業

## 患者さんのニーズに応える幅広いパイプラインを開発中

緑内障  
領域

## 新剤型

- 新点眼方式：  
タプロス・タプコム・エイベリス
- エイベリス PFUD\*

## 新薬

- STN1013900・STN1012600

## デバイス

- PRESERFLO MicroShunt

その他  
領域

## 新剤型

- アレジオン・ジクアス

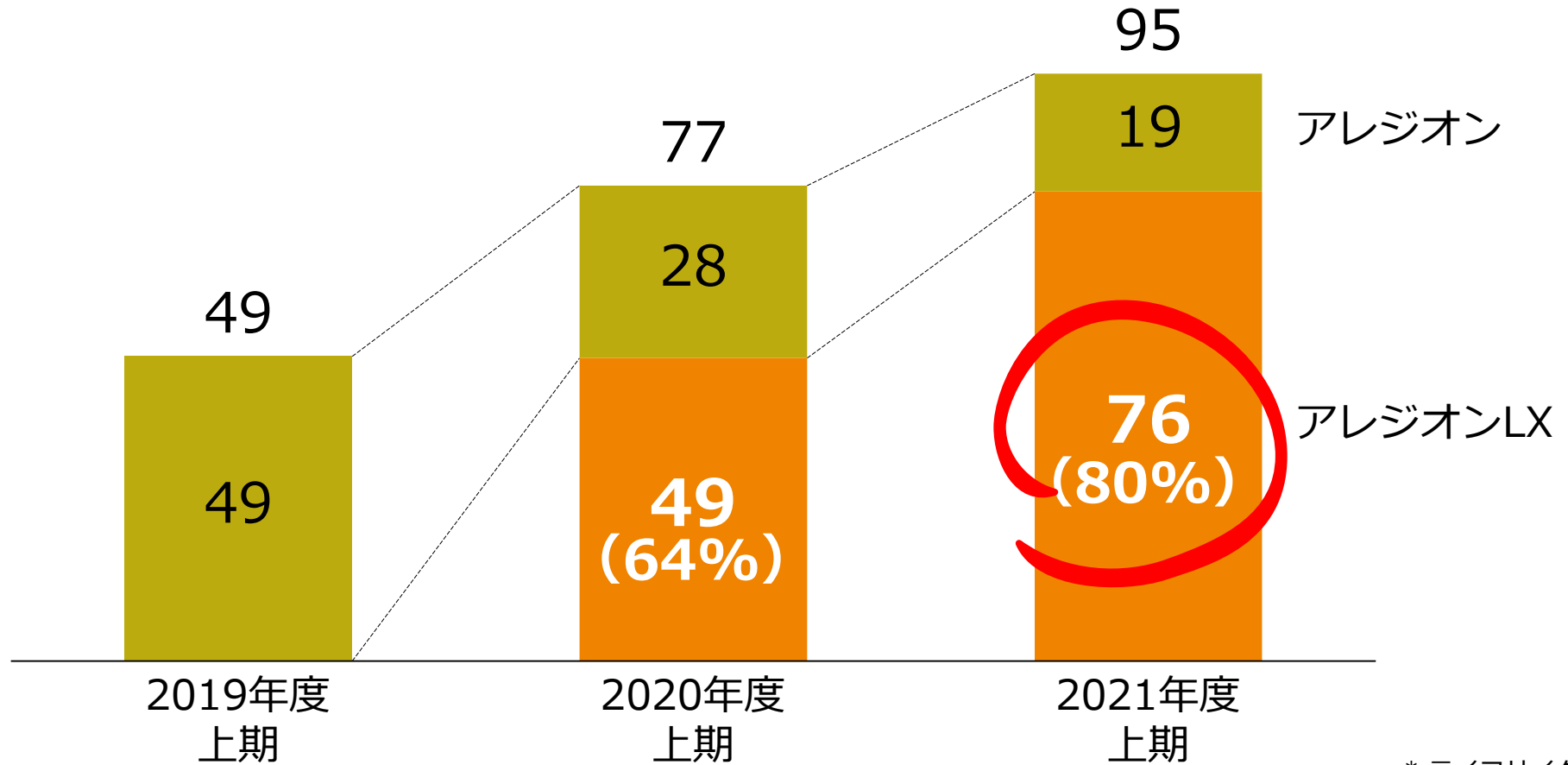
## 新薬

- ドライアイ：  
STN1013500・STN1010905
- 近視：  
STN1012700・STN1013400

\*Preservative Free Unit Dose

(1) 基盤事業での利益率向上：日本事業

## LCM\*製品であるアレジオンLXへの切替を積極的に推進

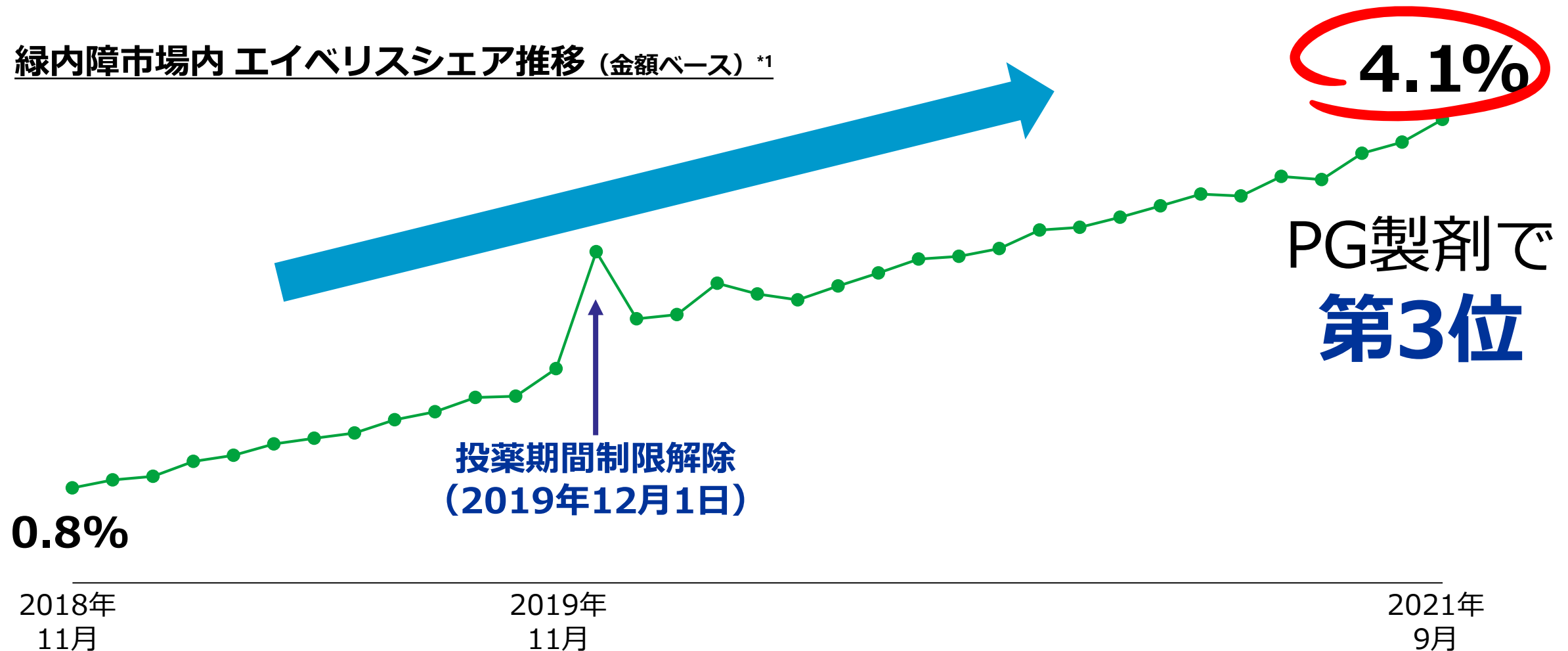
アレジオン売上収益（億円）

\* ライフサイクルマネジメント

(1) 基盤事業での利益率向上：日本事業

顧客ニーズに寄り添った活動により、着実に新製品を市場浸透

緑内障市場内 エイベリスシェア推移 (金額ベース) \*1



\*1 出典：Copyright © 2021 IQVIA. JPM 2018.11-2021.9を基に参天分析 無断転載禁止

(1) 基盤事業での利益率向上：中国事業

外部環境変化に対応できる能力を構築し、中長期戦略を着実に実行。  
デジタルを活用した新たな取り組みも開始

医療保険制度  
改革

医療費抑制

イノベーション  
の推進

下級施設・  
私立病院等への  
患者誘導

デジタルを活用  
した医療改革

市場創出

疾患啓発  
スクリーニング  
ガイドライン普及

マルチチャネル

国公立病院  
私立病院  
薬局等

新製品シフト



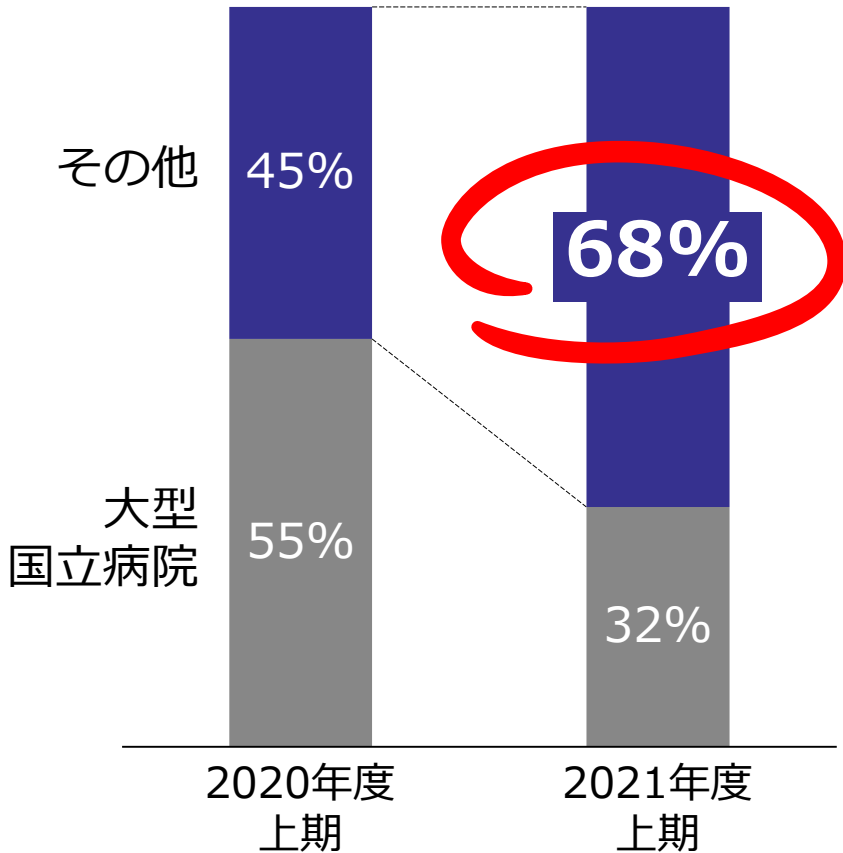
開発品

環境変化対応能力：環境・政策・景況

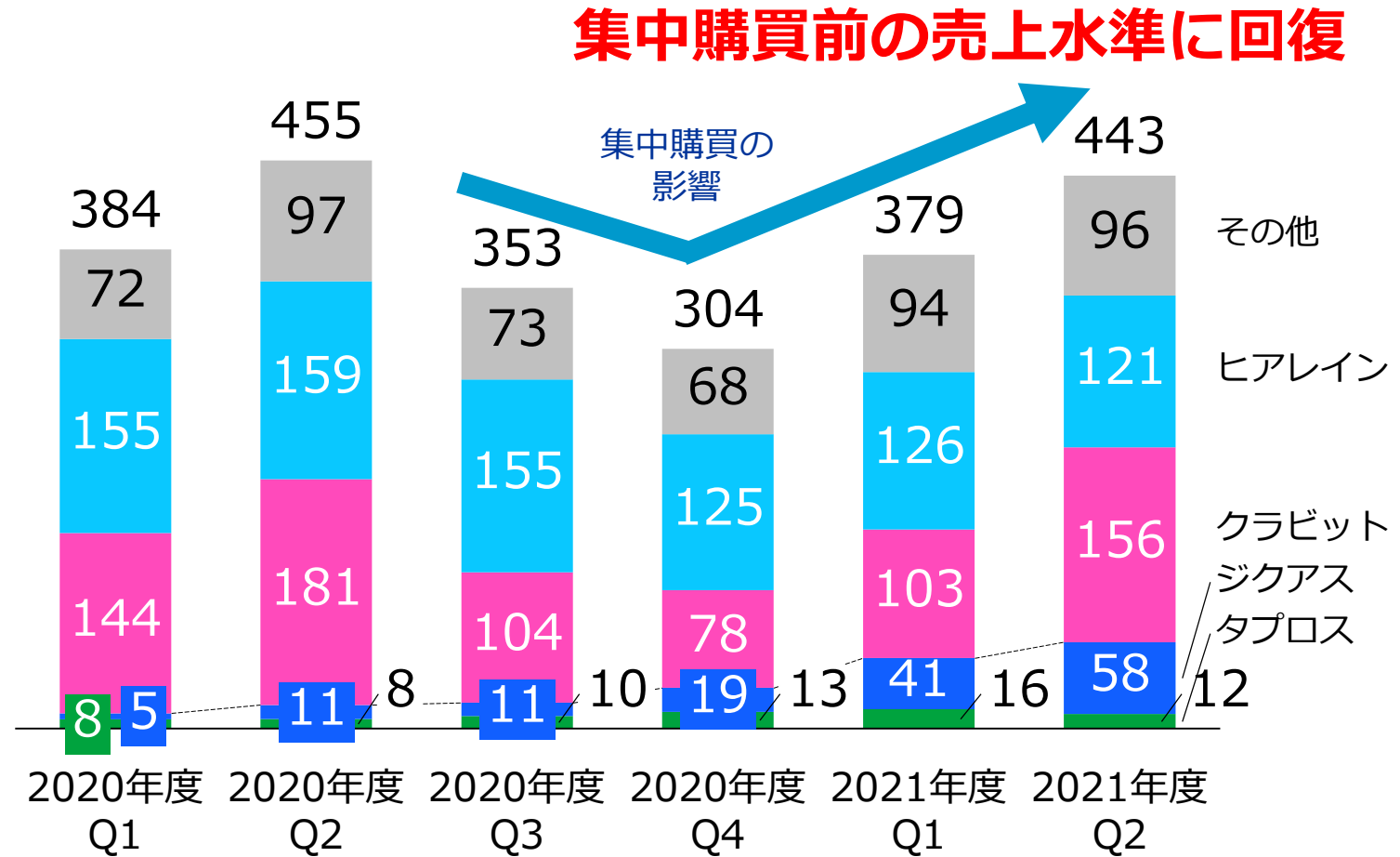
(1) 基盤事業での利益率向上：中国事業

# チャネルシフトと新製品による成長基調を継続

チャネル別売上比率



四半期別品目別売上（百万RMB）



(1) 基盤事業での利益率向上：アジア・EMEA事業

## 各地域のニーズを的確にとらえ中長期的な市場創造と成長へ

## アジア



## 眼科エコシステム発展への貢献

- SNEC\*<sup>1</sup>と連携し、眼科検査スタッフの教育を支援  
東南アジアの眼科医療のキャパシティ拡大へ
- 携帯アプリを活用した眼科医への医療情報提供  
**6,000名以上**の医療関係者が登録

## EMEA



## 順調な進捗でグローバル成長を後押し

- PRESEFLO MicroShuntは対前年同期売上**2倍**
- 市場創造・新製品へのシフトによる安定的な成長

\*1 Singapore National Eye Center



(2) 新規領域の拡大：米州事業

**米州は既存製品群で事業基盤を構築。  
開発品のアップサイドにより収益事業体への転換を図る**

**アップサイド** ➤ STN1010900、STN1012600

**成長上乘せ** ➤ STN1011700

**市場プレゼンス  
の向上**

- **Eyevance製品とVerkaziaの成長で米国の基盤構築**
  - 営業力の効率化、マーケット・アクセス&メディカル・アフェアーズ機能強化
  - Verkaziaは2021年度 Q4上市に向けたターゲティング、MR教育、上市準備

FY2021



FY2025



## (2) 新規領域の拡大：米州事業

リスクシナリオも想定しつつ、  
米州事業の中期的な経営基盤の確立を図る

緑内障

**STN1011700** : ➤ PDUFA : 11月19日  
申請中 ➤ 2022年度上期ローンチに向けて上市準備

**STN1012600** : ➤ 2021年度Q4に追加P2完了予定  
P2 ➤ 上市予定2025年度

ぶどう  
膜炎

**STN1010900** : ➤ 2021年中に中間解析（無益性解析）結果について  
P3 DMC\*からの勧告を受領予定  
➤ 上市予定2024年度

\* Data Monitoring Committee

### (3) グローバル企業としての土台の強化

**中長期成長を支える組織力強化・体制構築を進行。**  
**これまで以上にESGを重要な要素として位置づけ、全社で取り組む**

## R&D部門組織力強化

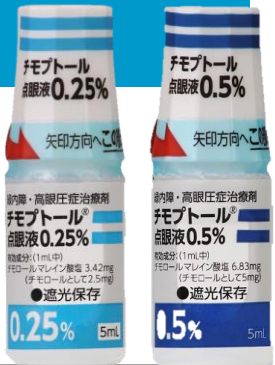
- グローバル臨床開発統括部門を設置
- 中国での製品開発強化のため、中国R&D統括部門を設置
- グローバルプロジェクトマネジメント機能強化

## 生産体制構築

- **先端技術**を取り入れた工場の建設を進行中。**安定供給と品質確保**を実現
  - 滋賀新棟（2023年度稼働予定）
  - 蘇州新工場（2025年稼働予定）

## ESGの取り組み

- 取締役会のスキルマトリックス、MTP2025の役員報酬指標設定
- 女性管理職比率目標値の設定（日本）
- **環境ビジョン（2050）**の策定、バイオマスプラスチックボトルの出荷開始



## グローバルで新しい働き方の導入を加速。 多様性のある人材登用を目指し制度を刷新・整備

### 生産性 向上

#### 生産性高く働ける場所をフレキシブルに選択

- 出勤を必須とせず\*、居住地に関わらない人材登用を実施

### 柔軟な 働き方

#### 働く時間を柔軟に調整しベストパフォーマンスを実現

- フルフレックスタイム\*の導入

### ボーダレス

#### グローバルでのバーチャルコミュニティの展開

- ITを活用したプラットフォームの提供運用開始

\*工場等を除く

# Agenda

- ① **MTP2025実現に向けた戦略展開**
  - (1) 基盤事業での利益率向上
  - (2) 新規領域の拡大
  - (3) グローバル企業としての土台の強化

## ② R&D Update

## ③ 業績概要

## Appendix

# 基盤事業、新規領域ともにパイプラインが順調に進捗し 中長期的成長を牽引

緑内障	STN1012600 Sepetaprost	欧州でのP2試験（探索的試験）において、 <b>FPI</b>
	STN1013900 Rhopressa	日本での1つ目のP3試験において、 <b>主要評価項目達成</b> （リパスジル点眼液に対する優越性を確認）
	STN2000100 PRESERFLO MicroShunt	シンガポールで <b>承認取得</b>
ドライアイ	STN1008903 ジクアス持続製剤	日本で、 <b>承認申請</b>
マイボーム腺 機能不全	STN1010905 Sirolimus	日本でのP2a試験において、 <b>FPI</b>
近視	STN1012700 アトロピン	中国でのP1試験において、 <b>FPI</b> および <b>LPO</b>
	SYD-101 アトロピン	欧州で、 <b>SYD-101を導入</b>
	STN1013400 AFDX0250BS	日本でのP1試験において、 <b>LPO</b>
眼瞼下垂	STN1013800 RVL-1201	アジアでの <b>申請準備を開始</b>

FPI; First Patient In, LPO; Last Patient Out

# Agenda

- ① **MTP2025実現に向けた戦略展開**
  - (1) 基盤事業での利益率向上
  - (2) 新規領域の拡大
  - (3) グローバル企業としての土台の強化

## ② R&D Update

## ③ 業績概要

## Appendix

# 売上は+8%の増収。利益は一過性要因によりコアベース減益となるが、正味実力としては増益基調

(単位:億円)	2019年度 第2四半期		2020年度 第2四半期		2021年度 第2四半期		対前年同期 増減率
	実績	(対売上 収益比率)	実績	(対売上 収益比率)	実績	(対売上 収益比率)	
<b>売上収益</b>	<b>1,188</b>		<b>1,189</b>		<b>1,288</b>		<b>+8.3%</b>
売上原価	483	41%	497	42%	529	41%	+6.4%
<b>売上総利益</b>	<b>705</b>	<b>59%</b>	<b>692</b>	<b>58%</b>	<b>759</b>	<b>59%</b>	<b>+9.7%</b>
販売費及び一般管理費	334	28%	332	28%	397	31%	+19.3%
研究開発費	114	10%	111	9%	123	10%	+10.9%
製品に係る無形資産償却費	49	4%	49	4%	48	4%	-1.9%
その他の収益	2	0%	3	0%	2	0%	-42.1%
その他の費用	19	2%	16	1%	5	0%	-68.4%
<b>営業利益</b>	<b>190</b>	<b>16%</b>	<b>187</b>	<b>16%</b>	<b>188</b>	<b>15%</b>	<b>+0.6%</b>
金融収益	5	0%	6	0%	7	1%	+18.6%
金融費用	11	1%	9	1%	4	0%	-50.1%
持分法による投資損失	--	--	0	0%	6	0%	--
税引前四半期利益	184	15%	184	15%	184	14%	+0.2%
法人所得税費用	53	4%	47	4%	41	3%	-11.1%
(税負担率)	28.7%		25.4%		22.5%		
<b>四半期利益</b>	<b>131</b>	<b>11%</b>	<b>137</b>	<b>12%</b>	<b>143</b>	<b>11%</b>	<b>+4.1%</b>
<b>コアベース</b>							
売上収益	1,188		1,189		1,288		+8.3%
<b>コア営業利益</b>	<b>256</b>	<b>22%</b>	<b>257</b>	<b>22%</b>	<b>243</b>	<b>19%</b>	<b>-5.4%</b>
コア四半期利益	188	16%	197	17%	186	14%	-5.7%
USD(円)	108.82		106.72		110.09		
EUR(円)	121.28		121.54		131.14		
CNY(円)	15.77		15.21		17.05		

## 主な差異要因

### 売上収益

#### 前年同期比+8.3%

- 各地域で順調に伸長

### 営業利益

#### 前年同期比+0.6%

- (-) 当第2四半期累計固有の一過性減益要因の影響  
国内販促費の期ずれ(9億円)、  
Eyevanceの新規連結(17億円)等
- (-) 製品に係る無形資産償却費: Eyevanceの遡及修正
- (+) 前年度InnFocus買収に係る条件付き対価の  
評価性費用計上

### コア営業利益

#### 前年同期比-5.4%

- 上記一過性要因(約20億円)調整後では約3%成長

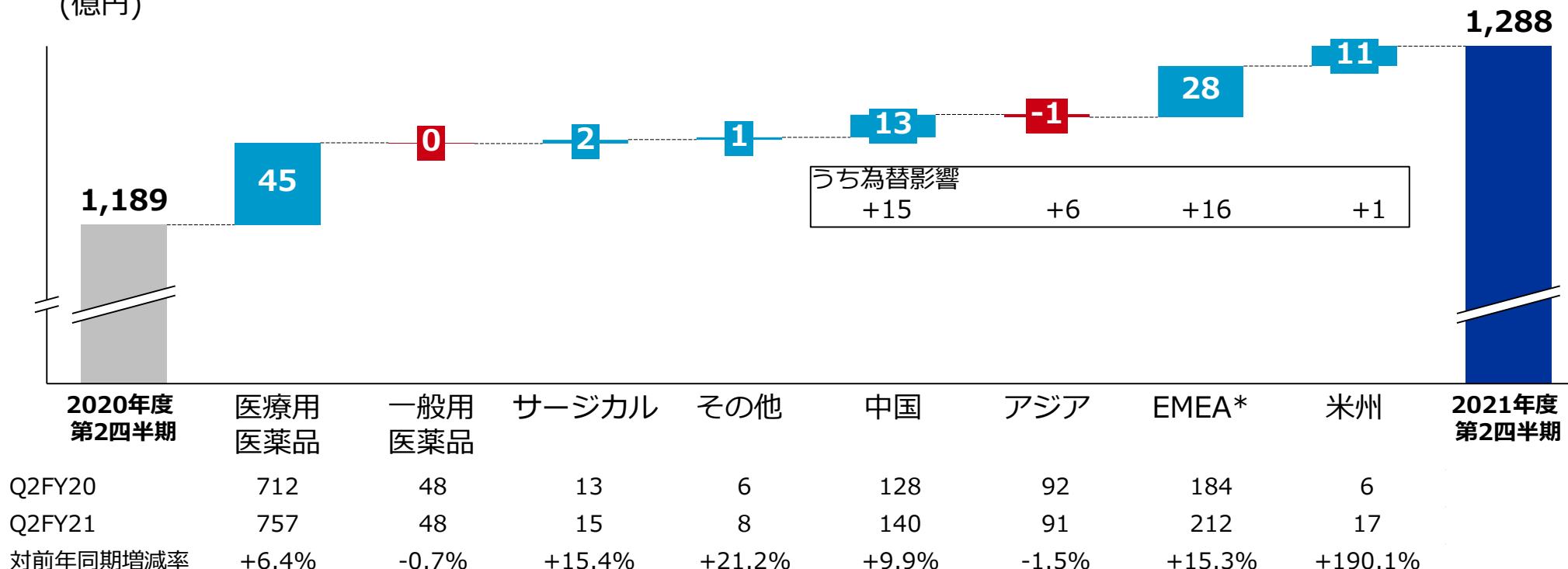


# COVID-19の影響から着実に成長、前年同期比増収で着地

## 売上の変化

(億円)

顧客の所在地をもとに国または地域に分類



日本売上 計828億円 前年同期比+6%

海外売上 計460億円 同+12%  
(うち為替影響+37億円)

\*EMEA：欧州・中東・アフリカ地域

連結業績予想は5月11日開示から変更なし。

**EyevanceのPPA\*完了に伴い2020年度の実績を遡及修正**

(単位:億円)	2020年度		2021年度		
	遡及修正後 実績	遡及修正後(対売上 収益比率)	予想	(対売上 収益比率)	遡及修正後 対前期増減率
<b>売上収益</b>	<b>2,496</b>		<b>2,600</b>		<b>+4.2%</b>
売上原価	982	39%	1,010	39%	+2.8%
<b>売上総利益</b>	<b>1,514</b>	<b>61%</b>	<b>1,590</b>	<b>61%</b>	<b>+5.0%</b>
販売費及び一般管理費	796	32%	814	31%	+2.3%
研究開発費	241	10%	260	10%	+7.8%
製品に係る無形資産償却費	107	4%	89	3%	-16.4%
その他の収益	160	6%	5	0%	-96.9%
その他の費用	409	16%	17	1%	-95.8%
<b>営業利益</b>	<b>122</b>	<b>5%</b>	<b>415</b>	<b>16%</b>	<b>+240.5%</b>
金融収益	13	1%	9	0%	-33.2%
金融費用	15	1%	2	0%	-86.6%
持分法による投資損失	4	0%	12	0%	+235.5%
税引前当期利益	117	5%	410	16%	+250.8%
法人所得税費用	26	1%	105	4%	+309.8%
(税負担率)	21.9%		25.6%		
<b>当期利益</b>	<b>91</b>	<b>4%</b>	<b>305</b>	<b>12%</b>	<b>+234.2%</b>
ROE	3.0%		10%		--
<b>コアベース</b>					
売上収益	2,496		2,600		+4.2%
<b>コア営業利益</b>	<b>501</b>	<b>20%</b>	<b>520</b>	<b>20%</b>	<b>+3.8%</b>
コア当期期利益	375	15%	390	15%	+4.0%
USD(円)	105.95		105.00		
EUR(円)	123.73		125.00		
CNY(円)	15.61		16.50		

## 主な差異要因

### 売上収益

#### 前期比+4%

- 各地域での拡販により、前期比で増収を見込む
- 為替レートを考慮するとアップサイドの蓋然性高い

### 営業利益

#### 前期比+241%

- 前期減損損失等の反動増
- 製品に係る無形資産償却費減も増益に寄与

### コア営業利益

#### 前期比+4%

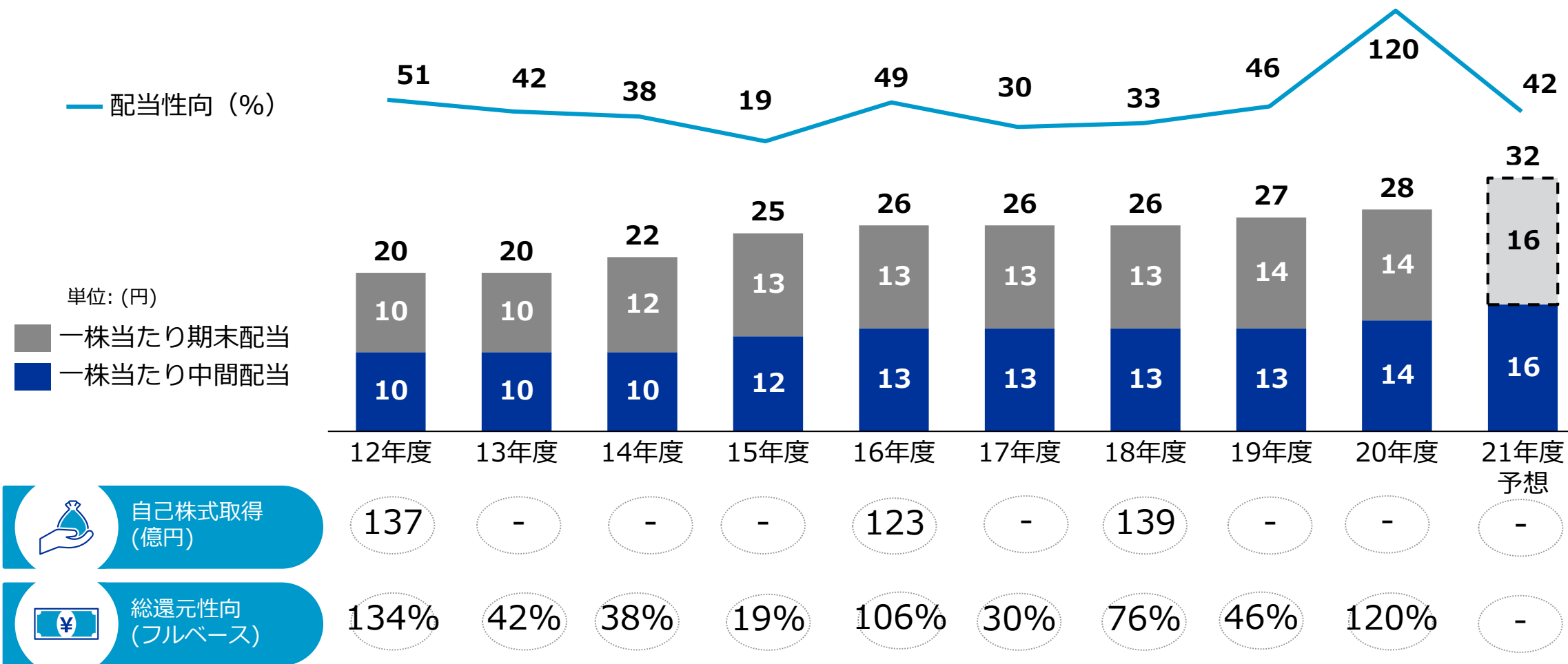
- 上記売上最大化による拡大均衡型増益を目指す
- 本年Q2まで、及び、前年Q3-Q4の一過性要因消滅

遡及修正について：

Eyevanceの買収価額の資産負債への配分に伴う遡及修正により、2020年度当期利益が25億円増加。

\*Purchase Price Allocation (取得原価の配分)

中間配当16円。前期より2円増配。年間配当（予想）は変更なし。  
 期末16円で年間配当32円、対前期4円増配を予定



2021年度予想総還元性向については、追加の自社株買いの可能性を含まず。2013年度まではJ-GAAP、2014年度以降はIFRSを基準に算出  
 2020年度の配当性向および総還元性向は遡及修正を実施

# Agenda

- ① **MTP2025実現に向けた戦略展開**
  - (1) 基盤事業での利益率向上
  - (2) 新規領域の拡大
  - (3) グローバル企業としての土台の強化
- ② **R&D Update**
- ③ **業績概要**

## Appendix

# 通期では業績予想レートよりも円安を見込むが、売上・利益予想は変更なし

上期実績

## 21年度業績予想 vs. 21年度上期実績

	業績予想	上期実績	業績予想比	業績予想比(%)
USD	105.0	110.1	5.1	104.8
EUR	125.0	131.1	6.1	104.9
CNY	16.5	17.1	0.6	103.3

## 上期実績に含まれる為替影響

(億円)	USD	EUR	CNY	合計
売上収益	+0.7	+9.9	+4.5	+15.2
コア営業利益	-3.2	+1.6	+1.7	+0.1

通期前提

## 21年度通期業績予想 vs. 想定

(上期実績と直近レートに基づく想定値)

	業績予想	下期想定	通期想定	業績予想比	業績予想比(%)
USD	105.0	115.0	112.6	7.6	107.2
EUR	125.0	132.0	131.6	6.6	105.3
CNY	16.5	17.5	17.3	0.8	104.7

## 通期業績予想比で見込まれる為替影響

(億円)	USD	EUR	CNY	合計
売上収益	+3.1	+21.1	+12.4	+36.5
コア営業利益	-12.0	+2.0	+3.2	-6.9

## 1%円安時\*のコア営業利益予想に与える影響

(億円)	USD	EUR	CNY
売上収益	+0.4	+4.0	+2.7
コア営業利益	-1.7	+0.4	+0.7

\*対期初業績予想レート

# キャッシュ最大化による投資余力確保と利益還元最適化をはかる

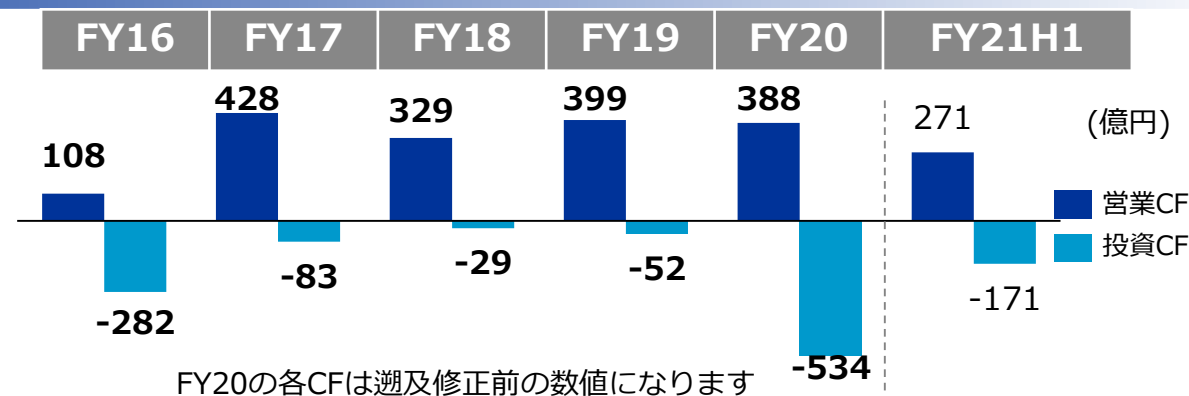
## キャッシュ・フロー

### 営業キャッシュ・フロー

- ・ 運転資金圧縮、税務最適化等により最大化

### 投資キャッシュ・フロー

- ・ 将来成長のための投資を最優先



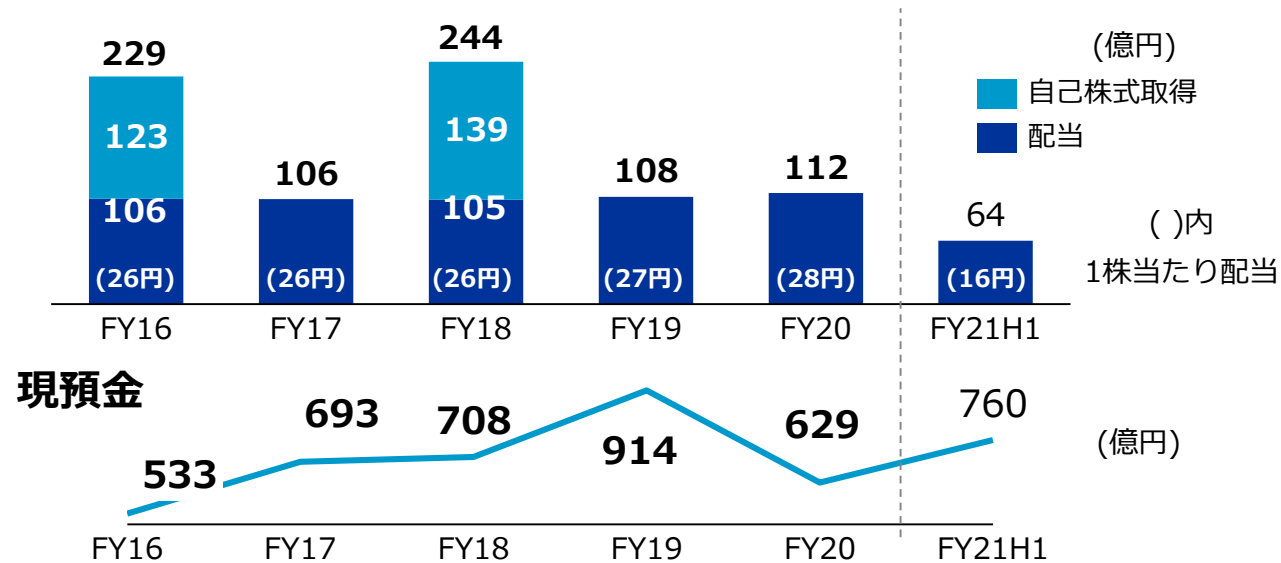
## 株主還元

### 配当

- ・ 安定的・持続的に向上
- ・ 直近三期連続増配。配当性向40%目途

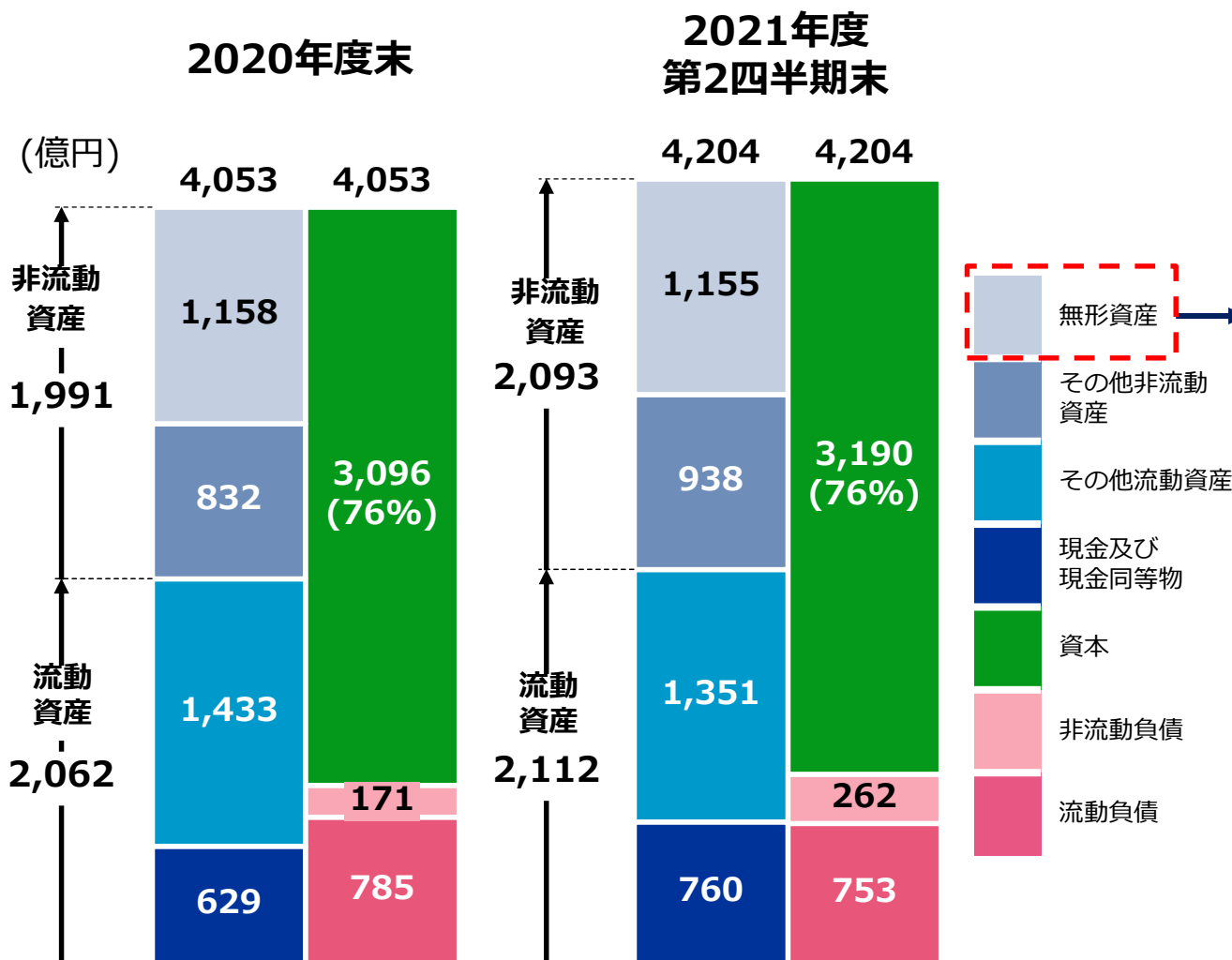
### 自己株式取得

- ・ 資本水準、及び、市場環境を勘案し機動的に実施

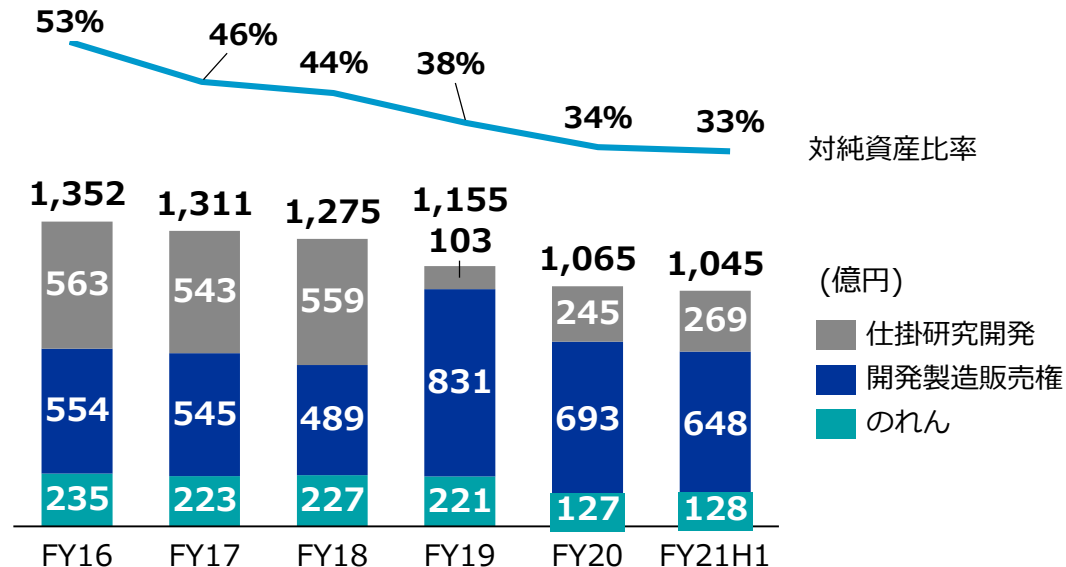


# 投資に伴う資産増加と健全性・安全性の両立。 資本回転率上昇を通じてROE向上を目指す

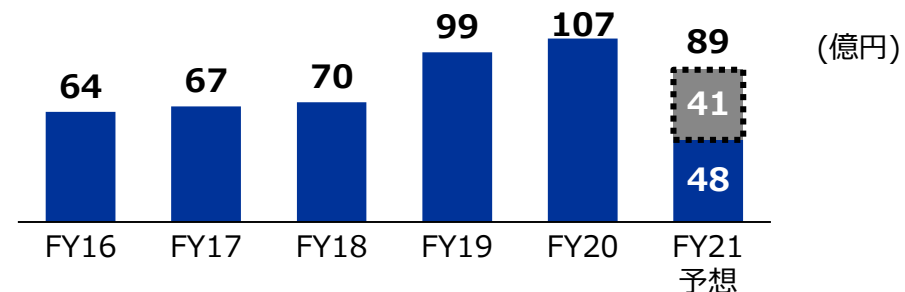
2020年度の遡及修正について：  
当第2四半期連結会計期間において、Eyevanceの取得対価の配分が完了したことに伴い、2020年度末の連結財政状態計算書を遡及修正しています。「無形資産」、「非流動資産合計」、「資産合計」、「利益剰余金」、「その他の資本の構成要素」、「資本合計」、「繰延税金負債」、「非流動負債合計」、「負債合計」、「資本及び負債合計」は遡及修正後の数値を記載しています。



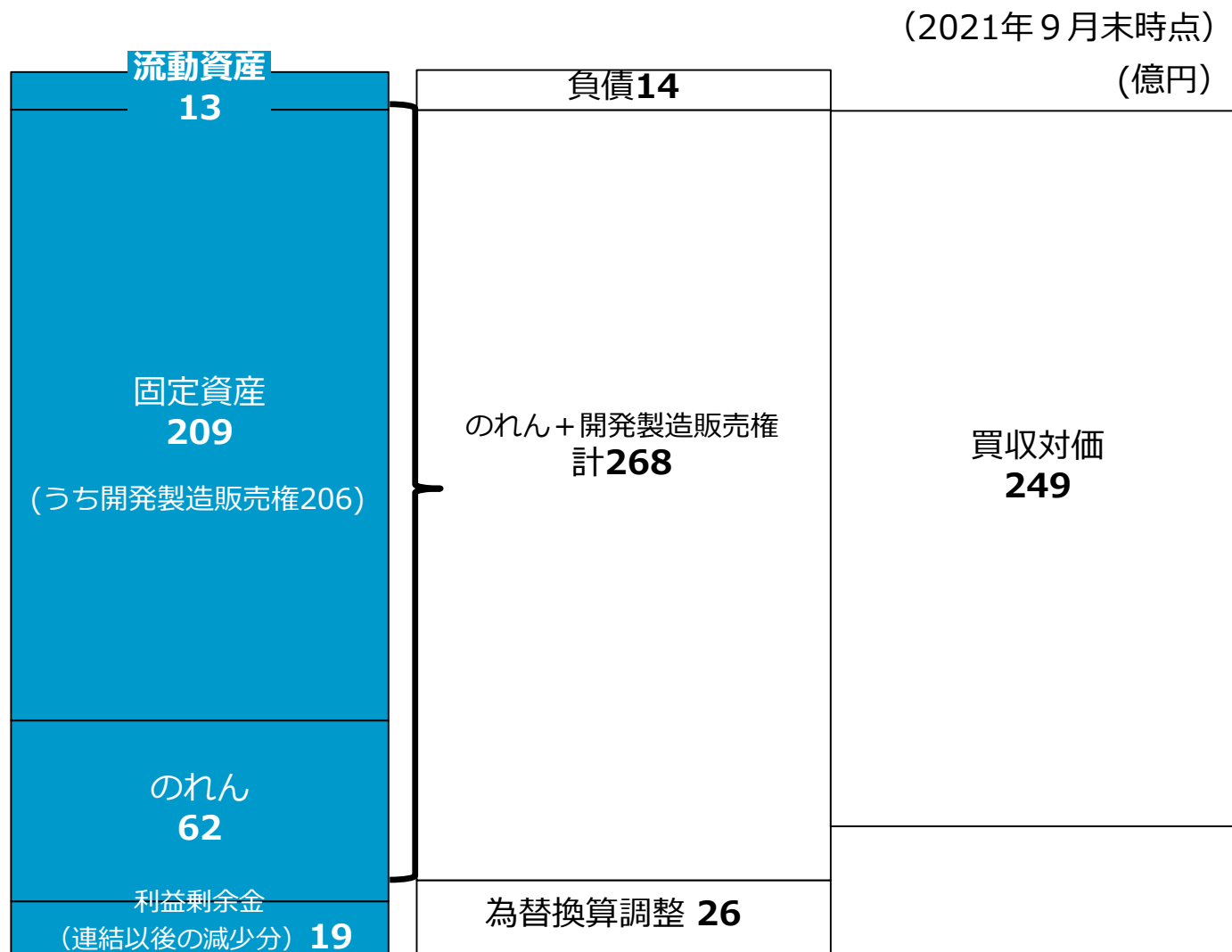
## うち、製品に係る無形資産の状況



## うち、製品に係る無形資産償却費の状況



# 2020年9月に買収したEyevanceの取得対価の配分が完了



## 2021年度第2四半期累計期間における 主な財務インパクト

暫定値との比較  
(暫定値→確定値 2021年9月末)

開発製造販売権	41億円→206億円
のれん	205億円→ 62億円

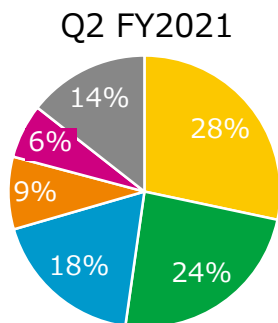
短信は取得日ベースでの数値のため、2021年9月末数値とは異なる



# 2021年度第2四半期 仕向地域別売上収益

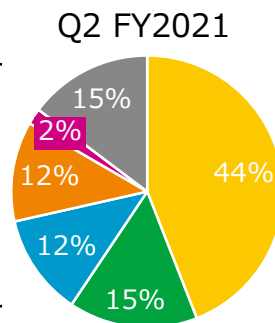
## 連結合計

YTD	Q2 FY2020 (参考)	Q2 FY2021
アイリニア* 硝子体内注射液	333億円	365億円
コソプト配合点眼液	107億円	108億円
アレジオン点眼液 (LX含む)	77億円	96億円
その他	672億円	720億円
合計	1,189億円	1,288億円



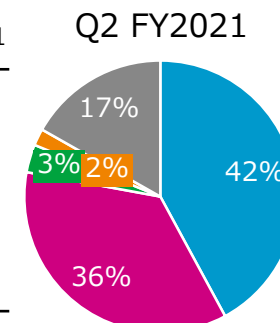
## 日本

YTD	Q2 FY2020 (参考)	Q2 FY2021
アイリニア* 硝子体内注射液	333億円	365億円
アレジオン点眼液 (LX含む)	77億円	95億円
ジクアス点眼液	61億円	67億円
その他	309億円	301億円
合計	779億円	828億円



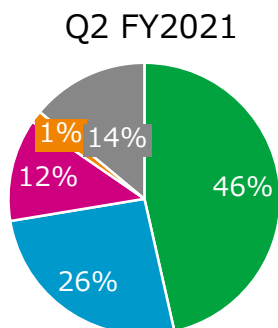
## 中国

YTD	Q2 FY2020 (参考)	Q2 FY2021
クラビット点眼液	49億円	44億円
ヒアレイン点眼液	48億円	42億円
ジクアス点眼液	2億円	17億円
その他	28億円	37億円
合計	128億円	140億円



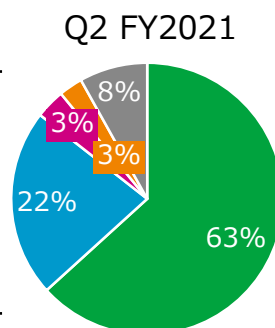
## アジア

YTD	Q2 FY2020 (参考)	Q2 FY2021
コソプト配合点眼液	21億円	25億円
タブロス点眼液	10億円	10億円
クラビット点眼液	11億円	9億円
その他	50億円	47億円
合計	92億円	91億円

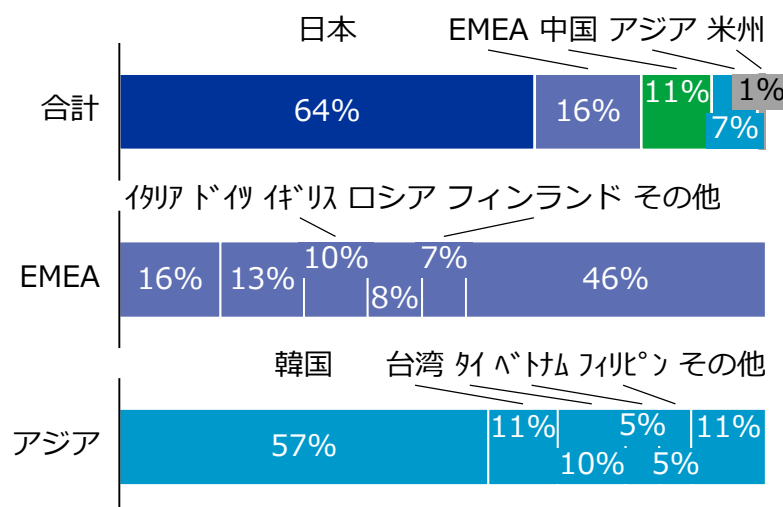


## EMEA

YTD	Q2 FY2020 (参考)	Q2 FY2021
コソプト配合点眼液	48億円	53億円
タブロス点眼液	33億円	33億円
Ikervis	17億円	25億円
その他	86億円	102億円
合計	184億円	212億円



## 主要国・地域別売上比率(Q2 FY2021/YTD)

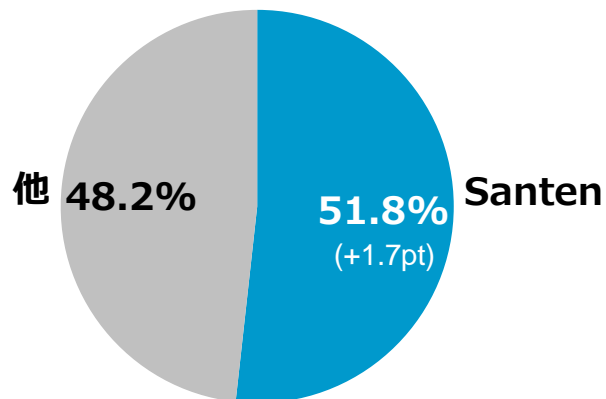


\*アイリニア：製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品

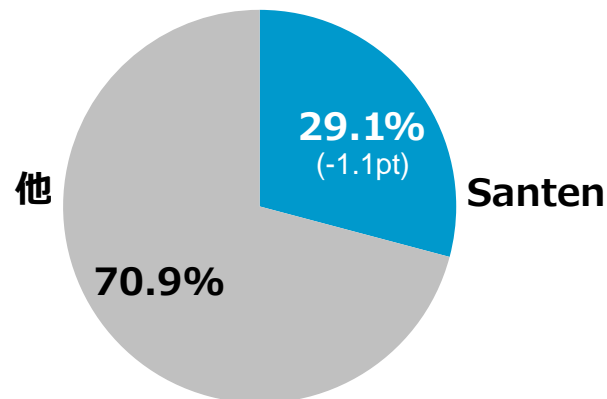
# 全ての領域において引き続きNo.1を維持

領域右記載数値：市場規模  
グラフ：マーケットシェア (括弧内は対前年増減)

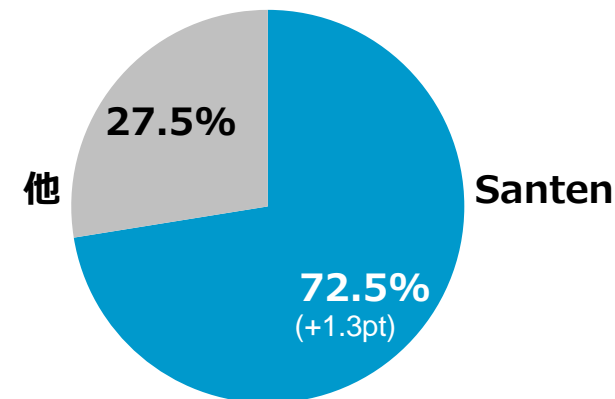
**Total : 3,831億円**



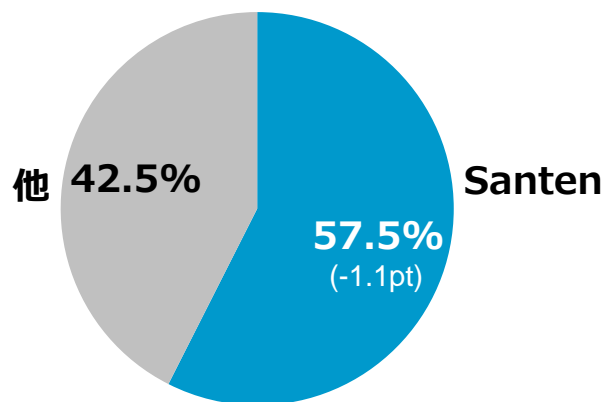
**抗緑内障剤 : 1,036億円**



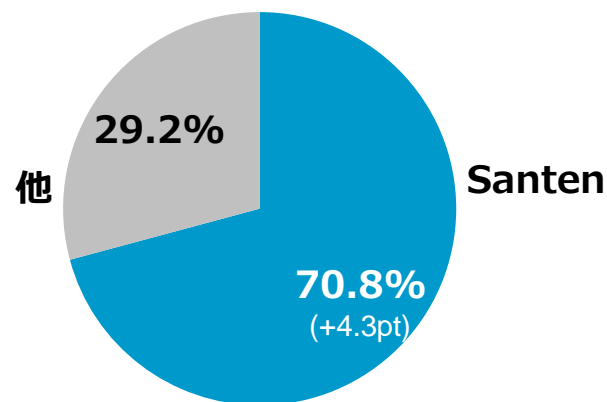
**網膜疾患治療剤\* : 1,148億円**



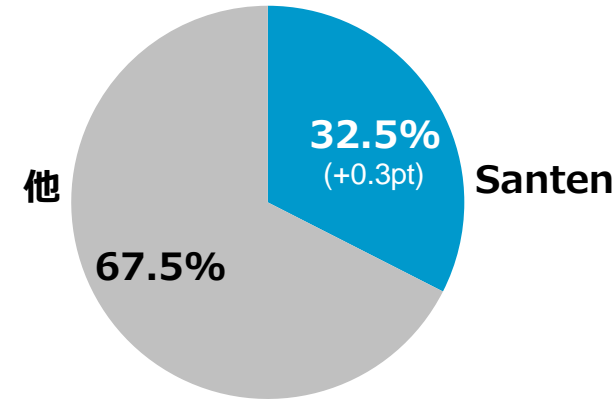
**角膜疾患治療剤 : 426億円**



**抗アレルギー剤 : 619億円**

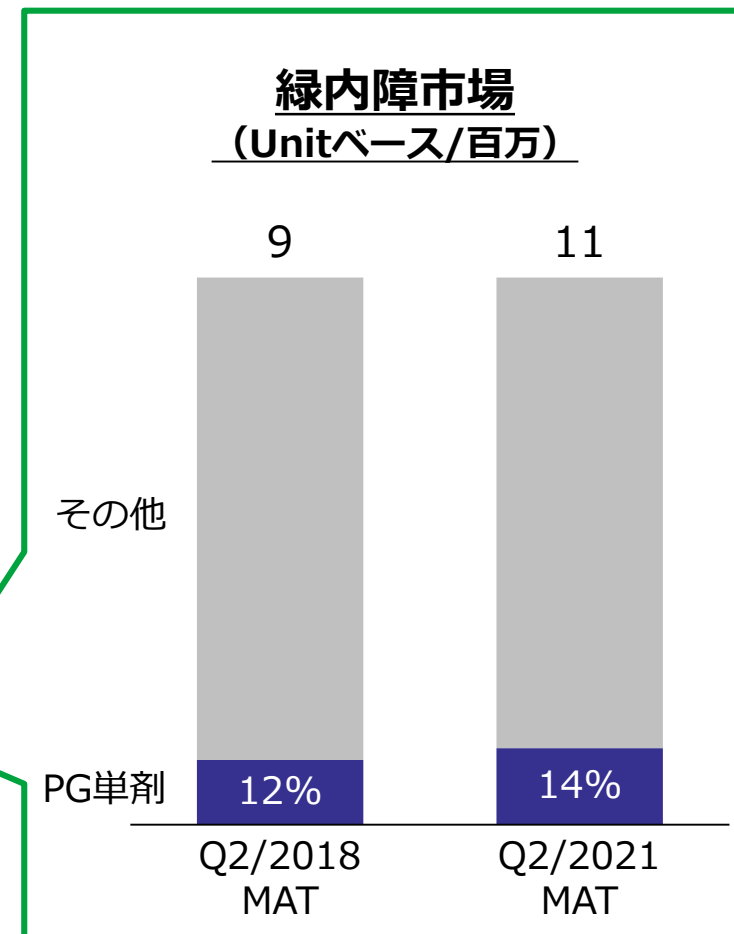
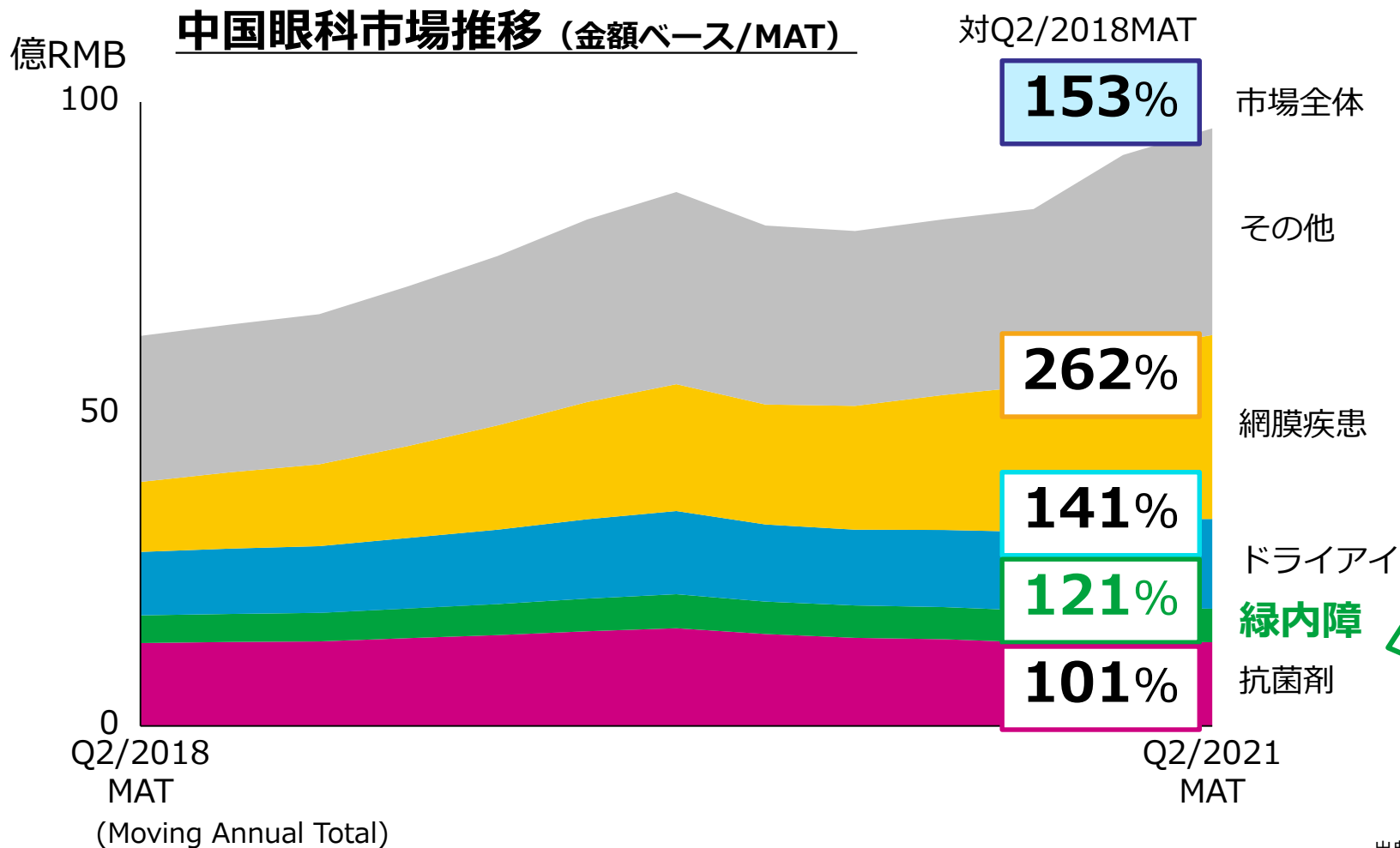


**抗菌点眼剤 : 82億円**



\*製造販売元であるバイエル薬品(株)とのコ・プロモーション製品(眼科用VEGF阻害剤「アイリニア」)を含む 出典: Copyright © 2021 IQVIA. JPM 2019.10-2021.9を基に参天分析 無断転載禁止

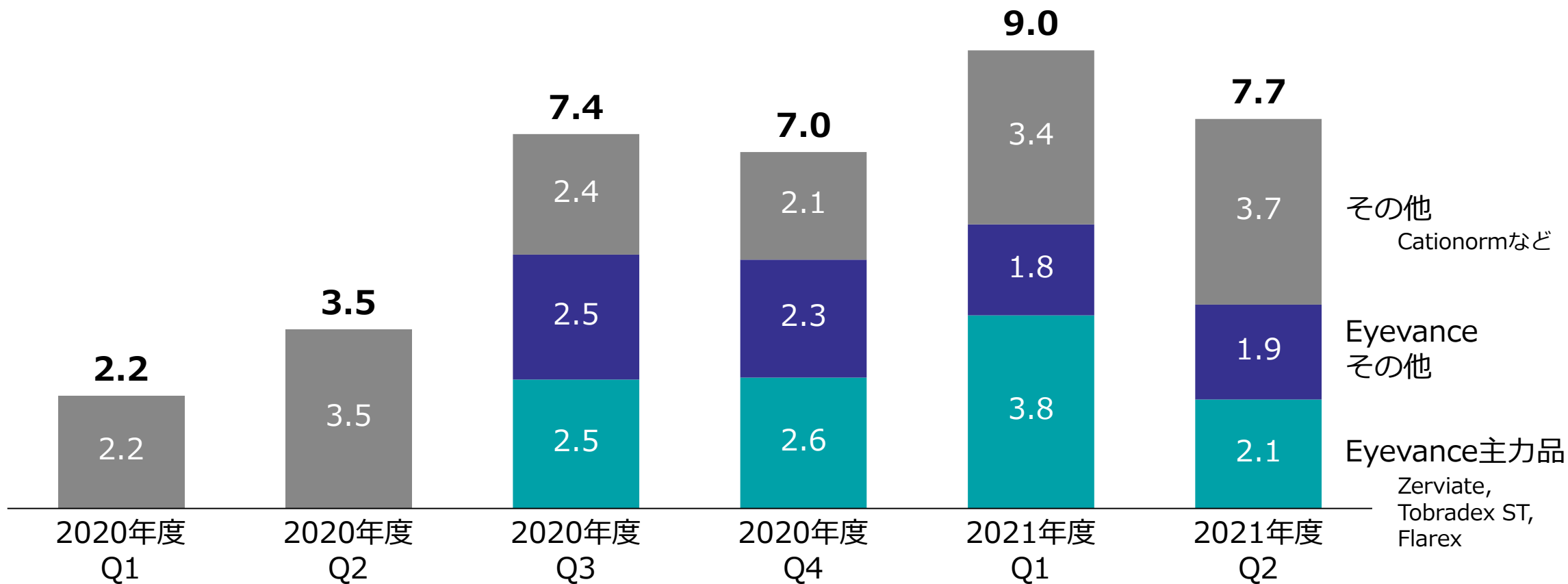
# 中国眼科市場



出典 : Copyright © 2021 IQVIA. MIDAS 2017Q3-2021Q2を基に参天分析 無断転載禁止

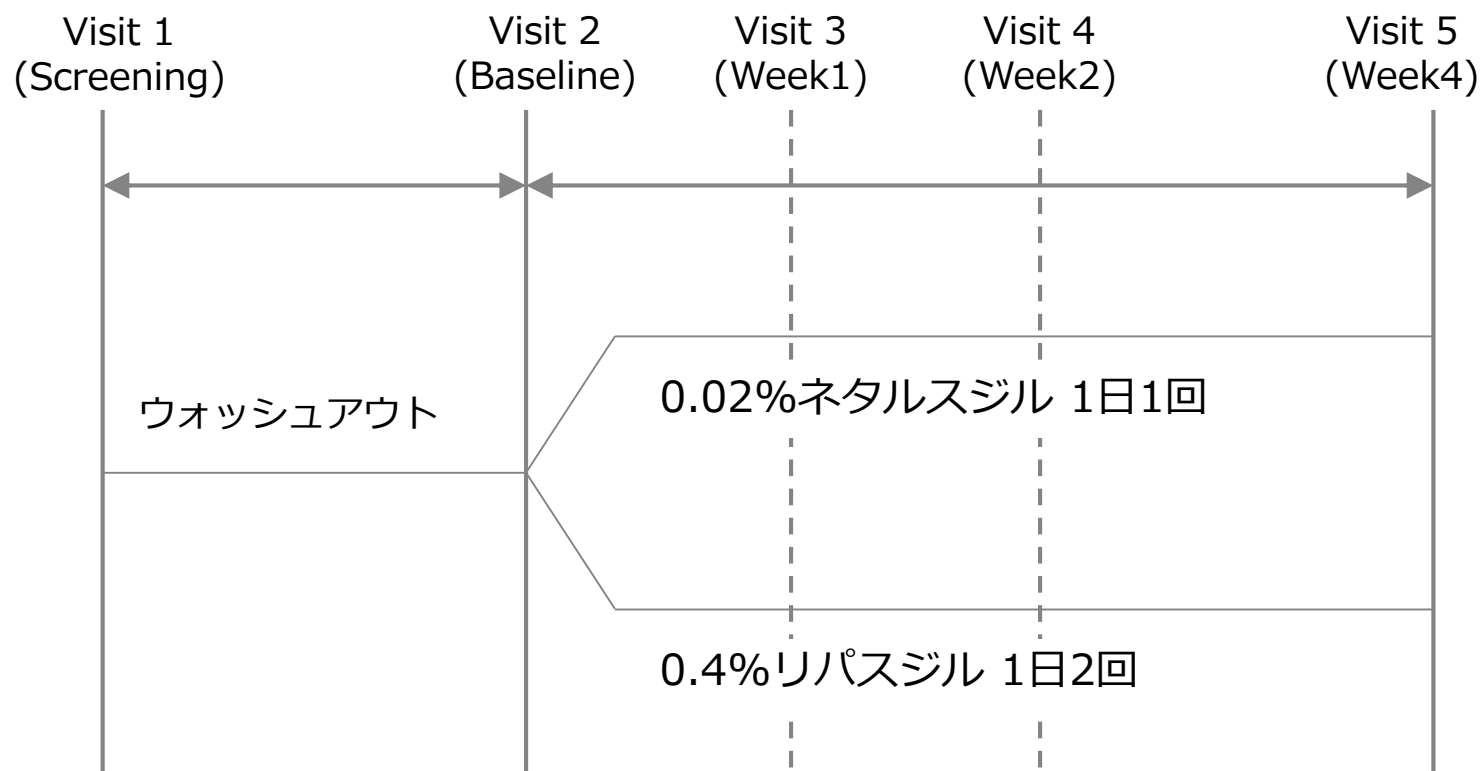
# 米州事業

## 米州事業売上推移（億円）

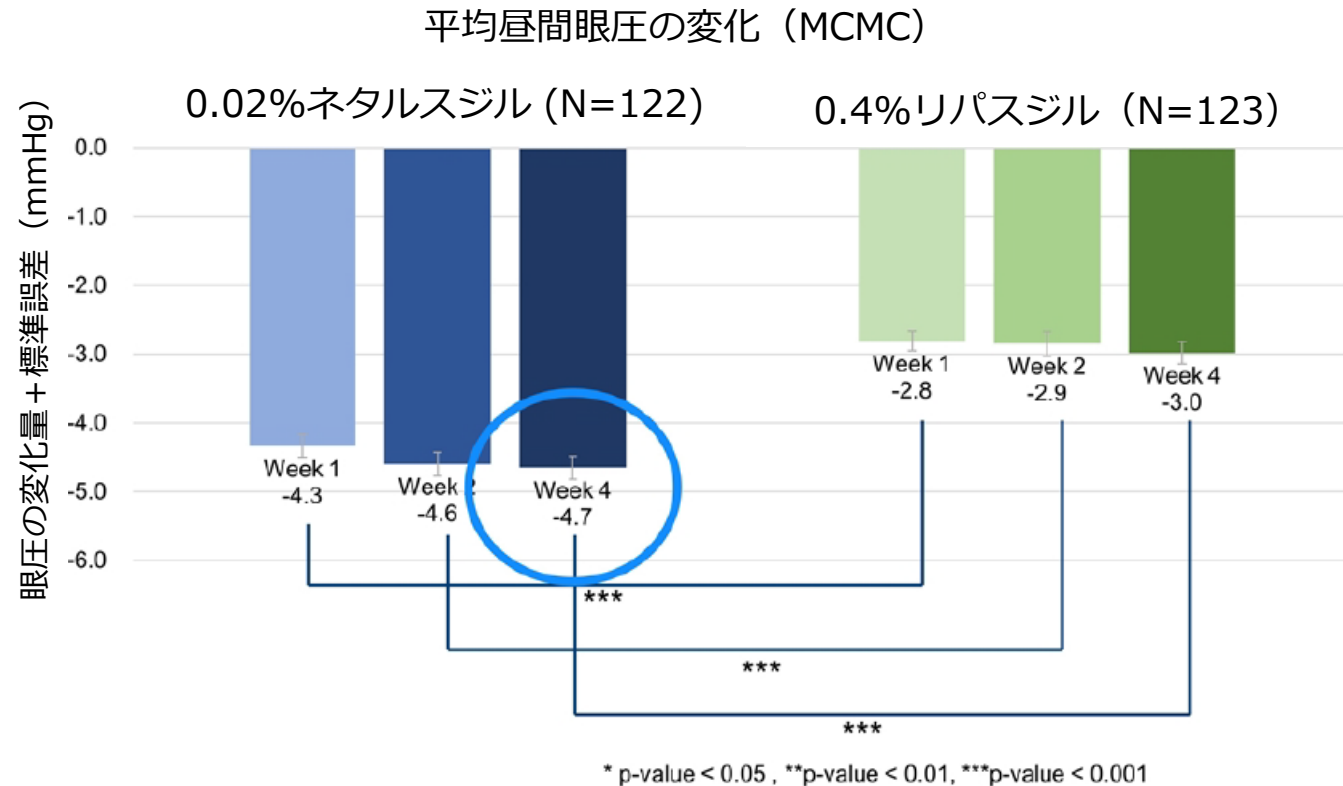


# STN1013900:日本における一つ目の第3相臨床試験の試験デザイン (Aerie社により実施)

開放隅角緑内障或いは高眼圧症日本人被験者に対する、1日2回のリパスジル0.4%点眼剤を対照とした1日1回ネタルスジル0.02%点眼剤の有効性・安全性を評価する4週間・単盲検・無作為化多施設群間比較試験



# STN1013900 : ネタルスジルがリパスジルに対する優越性を示した



## 安全性に関する要旨

- 0.02%ネタルスジルは高い認容性を示した
- 最も頻度の高い有害事象は充血 (ネタルスジル54.9%、リパスジル 62.6%)
- 殆どの充血は軽度であった

# 研究開発の状況①

(2021年10月現在)  
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	開発コード	開発地域	開発状況
緑内障	オミデネパグ イソプロピル エイベリス	<b>STN1011700</b> DE-117	米国	現状：申請 計画：2021年度 承認
			日本	現状：上市
			アジア	現状：上市
	Sepetaprost	<b>STN1012600</b> DE-126	米国	現状：P2 計画：2021年度 追加P2終了
			日本	現状：P2b（至適用量探索完了）
			欧州	現状：2021年9月 P2（探索的試験）開始 計画：2022年度 P2（探索的試験）終了
	緑内障用デバイス PRESERFLO MicroShunt	<b>STN2000100</b> DE-128	日本	現状：申請 計画：2021年度 承認
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：2021年9月 承認（シンガポール） 計画：2022年度 上市

米州、オーストラリア、及びニュージーランドについては、2021年5月にGlaukos社へ導出。

米国：PMA申請の臨床試験データの評価完了に向けて、FDAが現役緑内障手術医から追加情報を収集。

カナダ：承認取得。Glaukos社にて上市準備中。

オーストラリア：承認取得。Glaukos社にて上市準備中。

## 研究開発の状況②

(2021年10月現在)  
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	開発コード	開発地域	開発状況
緑内障	Netarsudil dimesylate Rhopressa	<b>STN1013900</b> AR-13324	日本	現状：P3 計画：2023年度 P3終了
近視	アトロピン硫酸塩	<b>STN1012700</b> DE-127	日本	現状：P2/3 計画：2023年度 P2/3終了
			中国	現状：2021年9月 P1開始 計画：2021年度 P1終了
			アジア	現状：P2（主要評価項目達成）
	AFDX0250BS	<b>STN1013400</b>	日本	現状：P1 計画：2021年度 P1終了
春季カタル	シクロスポリン Verkazia	<b>STN1007603</b> DE-076C	米国	現状：承認 計画：2021年度 上市
			中国	現状：申請 計画：2021年度 承認
ドライアイ	ジクアホソル ナトリウム (持続製剤) ジクアス	<b>STN1008903</b> DE-089C	日本	現状：2021年8月 申請 計画：2022年度 承認
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	<b>STN1010905</b>	日本	現状：2021年10月 P2a開始 計画：2022年度 P2a終了



# 研究開発の状況③

(2021年10月現在)  
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	開発コード	開発地域	開発状況
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩	<b>STN1013800</b> RVL-1201	アジア	計画：2022年度 申請
緑内障	タフルプロスト・ チモロールマレイン酸塩 (配合剤) タブコム、タブティコム	<b>STN1011101</b> DE-111A	中国	現状：P3 計画：2023年度 P3終了
	ラタノプロスト	<b>STN1013001</b> DE-130A Catioprost	欧州 アジア	現状：P3 計画：2021年度 P3終了
ぶどう膜炎	シロリムス 硝子体内注射剤	<b>STN1010900</b> DE-109	米国	現状：P3 計画：2022年度 P3終了 (2021年度中間解析)
			日本	現状：P3
			欧州	現状：P3
			アジア	現状：申請

- STN6000100 (jCell) は、jCyte社により網膜色素変性症を対象としたP2安全性試験 (NCT04604899) が開始されており、2022年度終了予定。jCyte社とP3に向けた準備を開始。  
ライセンス地域：日本、中国、アジア、欧州



**Imagine Your Happiness**

あなたのあしたを想う